

令和7年度 活動報告書

「城と城下町」②

令和8年3月



広島経済同友会

文化振興委員会

はじめに

当文化振興委員会では、歴史的文化財などを所有する各地域における保存活動やその価値の向上、さらにはインバウンド効果やその発信力をテーマに卓話を開催し見識を深めてきました。近年は全国的に“お城”という歴史・文化コンテンツを活用したまちづくり、観光政策などが多く見られ、その成果もあり、実際に 2023 年度には全国主要 50 城に 2000 万人超が訪れる、空前のお城ブームともされる活況を呈しています。これを受け、昨年より当委員会では、“お城と城下町”をテーマとして活動してきました。

わたしたちの広島においてははどうでしょう？ 天守は被爆により倒壊したとはいえ、広島城およびその城下町には、多くの史跡が残され、戦後復興の街づくりの中でも大切に守られてきました。そこで広島城内堀から中堀、外堀までフィールドワークを展開したほか、西国街道沿いの城下町の痕跡をたどるなど勉強会を開催。再発見するとともに知識の研鑽に努めました。視察会においては、現存天守を持つ国宝・松江城とその城下町を視察。現存する多くの歴史的建造物をはじめとする文化遺産は、街中観光コンテンツとして効果的に機能していることを学び、大いに刺激を受けました。

当文化振興委員会においては、広島経済同友会の基本方針及び活動スローガンである『“持続可能な都市（まち）”を目指して～50 年後の未来へつなぐ～』のもと、文化価値を活かしたまちづくりを視野に入れ、講演会、視察会を開催してまいりました。特に今年度は、広島城三の丸の第 1 期商業施設のオープンに関連し、市民参加型のイベントやインバウンドに向けた事業など、幅広く展開される中、当委員会もこのテーマを持って様々な検証をおこなっていきました。

本報告書では、令和 6 年度の「城と城下町」報告書①に続き取りまとめ、令和 8 年度の最終年度③へとつなげていきます。

広島城三の丸「温故知新～魅力ある都市空間は、歴史を生かしてこそ～」

講師 広島城アソシエイツ 事務局長 神尾 正博 氏

ハイブリット形式で開催した第1回委員会には、小田宏史、香川基吉両代表幹事をはじめ25名が参加。同年3月29日にオープンした広島城三の丸において、Park-PFI制度で管理・運営をおこなう民間事業者 広島城アソシエイツ 神尾正博事務局長に卓話をいただき、大きな話題を呼んでいる広島城三の丸事業についてお聞きした。



・広島城と城下町の歴史

戦国時代、西国随一の大名として中国地方のほぼ全域を制覇した毛利元就の孫にあたる毛利輝元が太田川河口のデルタ地帯に築城したのが広島城(1989年)。当地がデルタの中でもっとも広い島地であったことから「広島」と名付けられた。

関ヶ原の戦い(1600年)に西軍の総大将として臨んだ輝元は敗戦により周防・長門へ転封。かわって福島正則が入城したが、幕府に無断で城の回収をおこなったことで改易となり、かわって1619年浅野長晟が入城。以降、250年間浅野氏による統治が続いた。

この浅野時代に、広島城下は商業や交通の中心として発展。広島城の南側を通る西国街道沿いには町人町が広がり、「かぢや丁」「材木丁」「西魚町」「鉄砲屋町」など、職名を冠した町名も多く、一部はいまも残っている。かつての広島城・城下町は、内堀、中堀、外堀の三重の堀と、西を流れる太田川に囲まれた90万㎡を誇る大城郭だった。

・RCCの歴史と広島城周辺における事業

RCC(株式会社中国放送)は、1952年5月広島エリアの初めての民間放送局として誕生。当初はラジオ放送のみだったが、1959年にはテレビ放送を開始。県内では唯一のラジオ・テレビ兼営放送局として、2027年には開局75周年を迎える。

社屋の立地が、広島城のお堀端にあることから、広島城との親和性も高く、コラボイベントもこれまでに多く開催。毎秋広島城を中心に開催される「ひろしまフードフェスティバル」は、広島を代表するイベントとなっている。

これまでのおもな広島城×RCC 事業

- 1987年10月 中国放送開局35年「城熱 IN MY LIFE」
- 1992年10月 中国放送開局40年「基町ふぁんたアジア」
- 1993年10月 「HIROSHIMA FANTADIA」(第12回アジア競技大会広島の前年祭)
- 1995年10月 「もとまち FANTASIA」
- 1996年10月 「広島城秋祭り」
- 2005年10月 「ひろしまフードフェスティバル」
- 2019年2月 テレビ開局60年「チームラボ 広島城 光の祭」
- 2024年2月 「広島城オイスターフェス」

・広島城アソシエイツ

中国放送(RCC)が代表法人を務め、11社からなる共同事業体で、広島城三の丸整備等事業を展開する。

法人構成

株式会社RCC文化センター、株式会社TB Sホールディングス、株式会社フジタ広島支店、株式会社合人社計画研究所、エヌ・ティ都市開発株式会社、株式会社中国新聞社、株式会社中国四国博報堂、株式会社山下設計関西支社、NTTアーバンバリューサポート株式会社、株式会社シーケイ・テック



・事業コンセプト

広島は、広島城築城後、太田川のデルタ地帯を干拓することで拡大し、やがて政治、経済、交通の中心地として発展した。広島は、広島城が起点になっている。一方で、武家茶道の流れをくむ上田宗箇流や漆芸技法を独自に発展させた高盛絵の金城一国斎など、城下町広島で守り伝えられてきた独自の文化が数多くある。広島は人類史上初の原子爆弾による被災で多くの史跡が失われたが、城下の歴史文化は決して失われたわけではない。「歴史」を生かしてこそ魅力ある都市空間がつかれるという考え方のもと

温故知新

On Ko Chi Shin

魅力ある都市空間は、歴史を生かしてこそ。

広島城三の丸事業は、「温故知新」をコンセプトに掲げ、広島城を歴史と文化に触れる場所として見つめなおし、観光拠点としてのポテンシャルを最大限引き出していくこととし、これから新しくなる広島城三の丸には、年間 40 万人以上の来場をめざしていく。

・広島城三の丸のロゴマーク

「三の丸」を3つの丸と城跡記号をモチーフにシンボル化することですべての人が覚えやすいシンプルなデザインのロゴマークにした。また、3つの丸は過去/現在/未来も意味しており、温故知新を表現している。歴史・文化の発信拠点としての品格を備えつつ、親しみやすさも持ちあわせ、新たな観光地のシンボルとして、永く愛されるデザインをめざした。



Sannomaru Hiroshima Castle

・広島城三の丸 第1期エリア(2025年3月オープン)

広島・日本の食を楽しめる飲食店や茶道・弓道など日本の歴史・文化を体験・体感できる店舗のほか、広島県を代表する銘品や話題の商品、地元で愛されるお土産を取り揃える物産館など5店舗で構成。また、67台収容の駐車場や観光バスの乗降場も整備し、広島都心の観光拠点として機能。だれもがワクワクするような歴史体験などを通して「広島城の価値を伝え、残す」取り組みを実施していくことをめざす。

各商業施設の詳細



炭焼焼 鰻のうな輝…鰻ひつまぶしの本場・名古屋に第1号店を構える広島出身の店主が故郷に初出店。皮はパリッと、身はふっくらと炭火で焼き上げた極上の鰻を楽しむ。

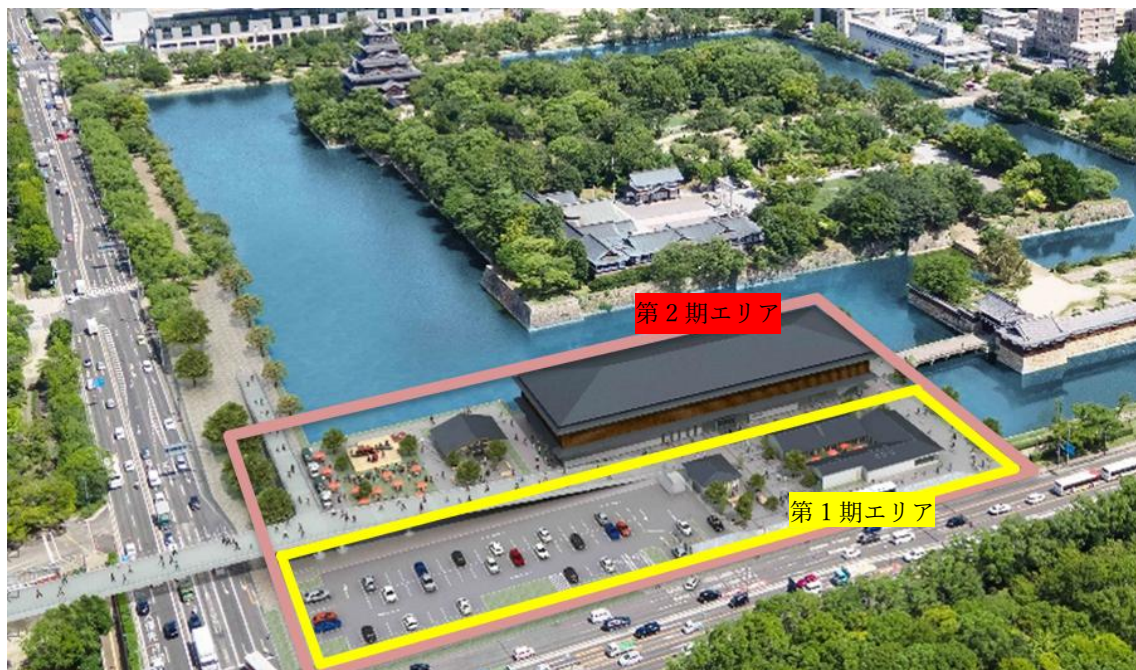
三の丸 八昌…広島を代表するお好み焼きの名店のひとつ「菓研堀 八昌」で10年以上修業した店主が、青のれんの八昌の歴史と味を受け継ぐ新店。

SOKO CAFÉ…広島ゆかりの武家茶道 上

田宗箇流が初監修するカフェ。カジュアルなカフェスタイルでありながら武家文化・茶道文化に触れることができる場所。

ひろしま IPPIN…「おりづるタワー」がプロデュースするこだわりセレクトショップ。広島の逸品・一品に出会える空間。

広島城 射楽…伝統遊戯の様式で、遊べて弓道を体感できるミニ弓道場。お城の中にある和弓の体験型遊戯店は全国初。弓矢を通じて広島歴史、伝統文化に親しめる。



・第2期エリア(2027年3月開業予定)

広島城三の丸歴史館をメインに、多目的広場、イベントステージ、商業施設などで構成される予定。このうち歴史館には、2026年3月22日をもって閉城となった広島城天守閣の資料を収蔵・展示する。

広島城三の丸のにぎわい施設視察 お点前と弓道を体験

第1回委員会に引き続き、オープンした広島城三の丸「第1期エリア」をテーマに22名の参加者を得て現地視察をおこなった。SOKO CAFÉにて広島城アソシエイツ事務局長 神尾正博氏よりあらためて事業概要を聞き、その後は各施設の人数制限もあったため3つのグループに分かれて、それぞれ施設で視察・体験をおこなった。



・概要説明

広島城三の丸事業「第1期エリア」は、広島城天守を間近に感じながら、来場者が思い思いに広島歴史と文化に触れることができるエリアで、商業施設と駐車場からなる。



商業施設には、広島食、日本の食を楽しめる飲食店や、茶道・弓道などの歴史文化を体験・体感できる店舗のほか、広島県の逸品や話題の商品、地元で愛されるお土産を取り揃える物産館など5店舗で構成される。

広島市中央公園内のひろしまゲートパークや、ひろしまスタジアムパークとペDESTリアンデッキでつながり、67台収容の平面駐車場や観光バス乗降場、タクシー乗り場も整備されており、平和公園や紙屋町、八丁堀など近隣エリアとの回遊性を持つ広島の新たな観光拠点となる。

①視察 SOKO CAFÉ

400年を経た今も広島で親しまれている
武将茶人 上田宗箇。その茶道は広島の伝統
文化となり、この三の丸施設において上田宗
箇流監修による茶の精神や作法を受け継ぎ
ながら、茶の世界をより身近に楽しめるのが
「SOKO CAFÉ」である。ここでは上田宗箇宗
匠が好む抹茶を取り扱う名店2店の茶を使用
している。



ひとつが熊本県球磨郡相良村四浦初神。1191年には茶生産をしていたこの地の茶農家が1966年にお茶の卸業をするため、広島県尾道市に創業した「宇治園製茶」。

ふたつ目が1717年創業の京都に本店を構える日本茶専門店、一保堂茶舗。創業当時は「近江屋」の屋号だったが、幕末に山階宮(やましなのみや)より「一保堂」の屋号を賜った。

双方のこだわり抜かれた薄茶・濃茶の奥深い味わいを、カジュアルなメニューで堪能できるカフェとなり、視察時にもたくさんの外国人が茶の湯を楽しんでいた。

②体験 伝統矢場・弓道体験「広島城射楽」

伝統遊戯「矢場」の様式に弓道要素を入れ、現代版にアレンジした和弓の体験型遊戯施設である。遊びながら弓道を体感でき、弓矢を通して広島の歴史や伝統文化に親しめる。広島城内での本格的な和弓遊びができるのは、全国で広島城だけであり、インバウンドも視野に年齢、性別、国籍、経験を問わず、記録と記憶に残る広島体験が可能で、当日も外国人の参加が多く見られた。

今回の体験では、メンバーの時間の制約もあり、20～30分程度であったが、本来



は、1時間のコースで本格的な衣装も着て本格的な弓道を体験できる。4人ずつ座った姿勢で矢を放つが、矢は基本的に右に流れていくものなので的に当てるには、あらかじめ左を狙うなどを学んだ。

③視察 ひろしま IPPIN

「ひろしま IPPIN」はおりづるタワーがプロデュースする物産館。店舗名に込められているのは、「広島にある特別に優れた「逸品」を揃え、お客様にとっての「一品」を見つけ出せる場所」という想いをコンセプトとしている。広島の「IPPIN」を探し巡り、県の特産物を使った食品や日用品から、伝統的工芸品など広島のちょっといいもの・奥深いものまで、こだわりの商品をセレクトした店舗である。



④体験 炭火焼 鰻のうな輝

視察会終了後の懇親会では、鰻ひつまぶしの本場・名古屋に第1号店を構える広島出身の店主が故郷に初出店とする。身の厚み、脂のノリ、大きさと3つの厳選ポイントクリアした最高の状態の鰻のみを生きたまま仕入れ、自慢のタレに使用する醤油



は愛知県産にこだわった鰻を高温の炭火で焼き上げ提供する。おすすめの鰻の薬膳鍋コースで食の体験をおこなった。



今回の視察では割愛されたが、このほかに伝統の技法と味を受け継いだ広島のスウルフードお好み焼き「三の丸 八昌」が出店している。

〈卓話〉テーマ「武家茶道 上田宗箇流と現代における茶の湯」

～伝統文化を継承していくために～

講師 茶道 上田宗箇流 家元 若宗匠 上田宗篁 氏

第2回委員会で視察した広島城三の丸「SOKO CAFÉ」をプロデュースされた公益財団法人 上田流和風堂 若宗匠 上田宗篁（そうこう）氏に卓話をいただいた。

・上田宗篁氏プロフィール

上田宗篁氏は、1978年生まれの広島県出身。國學院大学文学部卒業後、プロダンサーとして国内外で活躍され、2007年に帰国。2009年より上田流和風堂特別公開の責任者として企画を担当され、その後、多くの海外活動をおこなう。

2022年上田宗箇流和風会青年部 暁 会長に就任。就任にあたり、会の名称や規約、組織図を変更されるなど様々な改革に取り組み

れ、2025年・広島城三の丸に上田宗箇流初監修の SOKO CAFÉ においてメインプロデュースを担当。現在まで多くの企画や行事に関わり、茶道具のプロデュースやTV・新聞・雑誌等へ出演、寄稿の他、講演も精力的におこなっている。

上田宗篁氏は、難病のため足を手術。片足の切断は、免れたが、正座ができない状態に。その後、「楽しまなきゃ意味が無い」と考え、現代の茶の湯をアップデートする。例えば、茶道具の製作茶室の建築、立礼台など空間演出、デザイン的な面白さを表す。正座をしない茶の湯、立ったまま拝見できる床の間など、さまざまな提案をおこなっている。

・茶道とは

季節折々のおいしいお菓子と／おいしいお茶が飲めて
素晴らしい美術品を／人と交わりながら／時に清廉
時におだやかな空間を楽しむ



そんな「茶道」には、「総合芸術」と「社交場」の二つの側面がある。

総合芸術・・・美術品、着物、料理、お酒、お茶、お菓子、作法、建築など様々な要素があり、人それぞれ自分の楽しみをみつけることができる

社交場・・・今でいう、会合。大人数もあるがお茶の一番の贅沢は1客1亭。本来のお茶事は本当に気心の知れたメンバー3、4人を招いて行るのが一番良い。大寄せと言われるお茶は、多くの人にお茶を楽しんでもらうためにできた形式。

茶道人口の推移



図1 茶道を趣味とする人の行動者数(総数及び男女別)の変化
出典：平成8年から平成28年の「社会生活基本調査」(総務省統計局)
(URL: https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00200533&result_page=1)
を参照し作成した

茶道の課題として、茶道人口の減少の中、伝統文化の継承を時代や環境の変化に対応しつつ、不易流行の精神で柔軟性が必要となる。

・流派の中の武家茶道

茶道の流派のなかでも上田宗箇流は「武家茶道」である。これは武将が開祖となった茶道の流派を指し、点前や所作にも武家らしい動きが名残として残っている。

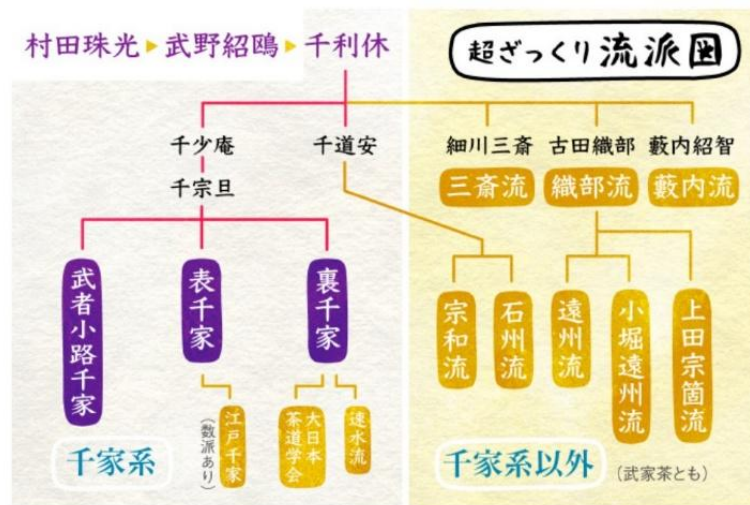
千利休の静中の美、古田織部の動中の美に対して、上田宗箇オリジナルの独特の美を見出している。

現在も、茶寮・和風堂・書院屋敷など江戸時代の武家屋敷構成再現がされており、被爆を乗り越え、伝来の道具・古文書も多数残っています。

作法の特徴としては、

「凛として、美しく。」

宗箇は利休、織部双方から茶を習っているので、その2人から影響を受けている部分もあるが、結果的には「ウツクシキ」という、その2人とはまた違う独自の個性を生み出している。



・上田宗箇の歴史、伝統文化

上田家の祖、上田宗箇は数々の武勲をあげた猛将として知られる。紆余曲折を経てきた宗箇の生き方が流儀の特徴に表れている。

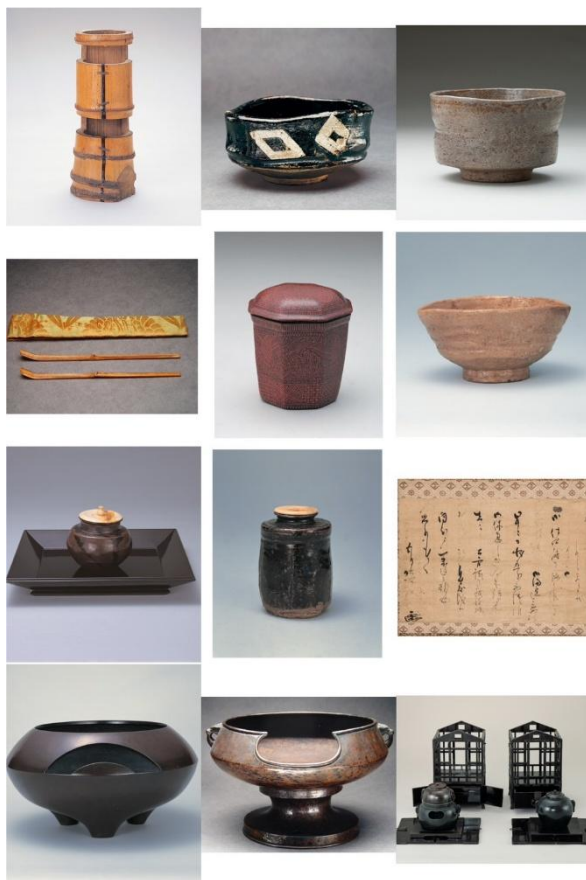
本来は、「上田家」という武家の家。家元は上田家の当主、というのが本来の位置づけ。

上田家の歴史

- 江戸時代 260 年間 12 代に亘り、広島城内の屋敷に居住
- 明治 4 年新政府になり上屋敷を返還、下屋敷に移る
- 昭和 12 年に現在の古江に移築
- 昭和 20 年原爆投下により広島は壊滅
- 昭和 54 年古江の地で和風堂再建を開始
- 平成 20 年現在の和風堂にて上田家広島城内上屋敷の構成を再現
- 令和元年上田宗箇広島入国から 400 年

茶道上田宗箇流の家元は上田流茶道の継承者として茶道を主にした文化を継承する家という存在意義を持つ。

上田家に伝わる宗箇に関する陶磁器など 82 点は、広島市の重要有形文化財に指定され、現在建設中の広島城三の丸歴史観での公開を計画中。



西暦	歳	事項	西暦	歳	事項
1563	1	尾州星崎（名古屋市南区）に生まれる。諱：重安 幼名：左太郎	1603	41	織部茶会に参会。
1576	14	初陣（歳を16歳と詐称）。	1604	42	紀州に和風堂を営む。
1578	16	丹羽長秀に従い、荒木村重の伊丹城攻略に参加。	1605	43	浅野幸長茶会に参会。
1582	20	丹羽長秀に従い、明智光秀側の大坂・織田信澄の野田城を攻め、一番槍。	1605	43	紀州の粉河寺庭園作庭。
1587	25	秀吉の九州攻めに参戦。蒲生氏郷の豊前藤田城攻めに参加。一番槍。	1608	46	古田織部茶会。
1590	28	秀吉の小田原攻めに参戦。一番槍。11月6日、利休茶会に出席。	1609	47	古田織部茶会。
1595	33	伏見屋敷普請。	1611	49	古田織部茶会。
1596	34	松屋久政の茶会に招かれる。	1615	53	大坂夏の陣に参戦。一番槍。茶杓「敵がくれ」作成。名古屋城二の丸庭園の作庭。
1599	37	伏見にて茶会「籠花入を使う」。7月、大徳寺三玄院・春屋宗園より、「宗園」を授かる。	1619	57	浅野長晟（ながあきら）の芸州移封に伴い、広島に入る。
1600	38	関ヶ原の戦いで西軍に与し、所領没収。阿波（徳島）に。徳島城表御殿庭園作庭。	1620	58	長晟の「繪景園」（浅野家別邸・泉水館）を作庭。
1601	39	古田織部茶会に2度参加。	1622	60	広島城内の上層敷内に「和風堂（遠鐘茶室も）」を営む。
			1650	88	没。

・SOKO CAFÉ について

SOKO CAFE については、「茶の湯文化の玄関口」として、日本人でも茶の湯を知らない方や上田宗箇流を知らない方に向け、身近な伝統文化に触れてもらうこと、また日常における茶の湯の模索、インバウンドに向けた日本伝統文化の発信、さらには市街地における上田宗箇流の新たな価値の創造などをめざし、さまざまなメニュー、コンテンツを発信している。



令和8年(2026年)1月27・28日

熊本城・城下町視察会

文化振興委員会では1月27日、28日に熊本城・城下町視察会委を実施した。
2016年4月の熊本地震によって甚大な被害を受けた日本3名城のひとつ熊本城。復興が進む城の今とその城下町の意義などを考えながら、有意義な視察となった。

1日目

①熊本城ミュージアムわくわく座

当施設は、2011年3月にオープンした熊本城の歴史や文化を、映像や体験型展示で学べる拠点施設。「駕籠体験」や「馬術体験」、大人気の「なりきり体験」をはじめ、大スクリーンで体感する「熊本城VR(バーチャルリアリティ)」など、体験しながら楽しく学べるコンテンツが並び、まさに“わくわく座”にふさわしい展示となっている。



②桜の馬場城彩苑見学・熊本城見学

「わくわく座」を含む一帯は、「桜の馬場 城彩苑」といわれ、地域の食文化や歴史、伝統を発信しお城と城下町の魅力を高める観光施設となっている。県内各地の食やお土産品がそろって



食物販施設「桜の小路」など 24 店舗を備え、併設する総合観光案内所では、熊本市内をはじめ、県内の様々な観光情報を案内し、観光ボランティアも常駐している。



熊本城の見学

城彩苑でしっかり予習した後、熊本城を見学。熊本城は、別名銀杏城とも呼ばれ、安土桃山・江戸初期の名将加藤清正によって、1601年(慶長6年)から約7年の歳月をかけ築かれた名城である。周囲5.3km、総面積98haに及ぶ広大な城郭で、そのなかに天守3、櫓49、櫓門18、城門29の構えを持ち、石垣や自然の地形を利用した独特の築城技術が生かされている。また桜の名所としても有名で、春には山桜、肥後桜、ソメイヨシノの3種類・約800本の桜が咲き誇る。熊本地震後、段階的に復旧が進み、現在では、天守閣内部の観覧が可能。引き続き解体保存工事が続いており、痛々しい思いを抱きながら現実を見て回った。石垣が崩れているので修復するのは、一旦上の建物を取り除いて土台から修復するため、すべての復興が終わるには、さらにあと30年かかるということだった。





左の石垣を見るとわかるが、石が崩れて危険なため、コンクリートで一時的に固めています

「くまもとよかとこ案内人の会」が、城彩苑の総合観光案内所に常駐所を設けて、熊本城を訪れた観光客を対象に、歴史、文化などを、アマチュアならではの素朴さと人情を交えてボランティアでガイドをおこなっている。



“奇跡の一本石垣”としてマスコミにも大きく取り上げられた飯田丸五階櫓などを含め 35 万個の石を 35 年かけて積み直す。



17 億円をかけて特別見学通路が建設され、この通路上から安全に見学できるようになっています

2020 年に完成した行幸坂を上った東側の入り口から天守閣前広場へとつながる全長約 350 メートルある見学通路。地上から約 6 メートルある通路からは修復を待つ崩落した石垣を間近に見ることができ、被災状況のいまと熊本城の復興への歩みをリアルタイムに感じる事が出来る。



通路の下では職人さんが作業されています。塗り壁用の土をわらと発酵させる必要があるようです

国指定の重要文化財でもある田子櫓(たごやくら)など五つの櫓は、熊本地震で柱が傾き、壁が剥がれ落ちたり、亀裂が入ったりするなどの被害が出た。壁土は1年以上寝かせて自然に発酵分解させ、練り返しをおこなうことでわらが細かい繊維質となり、のりのように粘着力が増して壁の強度も高まる。



石垣の石もナンバリングされて、石垣の内側は、最新技術で外は、元通りにする作業となっています

跡修理で石垣を積み直すときは石材にナンバリングして解体し、番号の通りに積み戻していく。災害のような予期せぬ崩落の場合は、崩落前の写真や図面を手がかりに石材の原位置を特定し、ジグソーパズルのようにひとつずつはめていく。



地下通路などは、修復され一部見ることができます

天守閣は、2021年に復興のシンボルとして復元

地下1階、地上3階建ての本丸御殿の入り口は、日本で唯一地下にある珍しい構造で、通路が暗いことから「闇り通路(くらがりつうろ)」と呼ばれている。石垣でできたこの地下通路には地震による大きな被害はなく、現在は石垣がネットで補強されている。

意見交換会・懇親会

〈卓話〉テーマ:世界に拓く「城下町都市」くまもと

～熊本市中心市街地グランドデザイン 2050～

熊本経済同友会 常任幹事 西嶋公一氏

創造的復興の数々の取り組みやまちづくりの機運を「まちの理想」の実現につなげたい、そうした思いから平成30年1月、熊本商工会議所及び熊本経済同友会から、熊本地震からの創造的復興を見据え、2050年を目標に熊本市中心市街地のビジョンを描いた「熊本中心市街地グランドデザイン 2050～世界に拓く城下町都市くまもと～」提言書を策定。この提言内容について講演いただいた。



熊本市中心市街地は、世界に誇る熊本城を始めとする地域の歴史、文化、自然の魅力を活かすと共に、若い世代が生き生きと活動する未来標準の生活基盤を整えることで、国内はもとより世界からも注目され親しまれる多文化交流の都市、「世界に拓く『城下町都市』」となることを目指す。



ご講演いただいた。熊本経済同友会常任幹事 西嶋公一氏

- ① 中心市街地が目指すべき姿と課題
- ② 課題克服と発展に向けた城下町都市の実現
- ③ 目指すべき姿の具体的なイメージ
- ④ 同実現に向けた成長戦略
- ⑤ 成長戦略と10のプロジェクト
- ⑥ 中心市街地のエリアイメージ
- ⑦ 各機関の役割と推進体制

について提言があり、熊本のまちは、熊本城を中心に発展してきた歴史を持ち、そのため、熊本の都市構造を理解するうえでは「城下町」という視点がとても大切である。現在進められている「熊本

市中心市街地「Grandデザイン 2050」でも、熊本城をまちの核として位置づけ、歴史や文化を軸にしたまちづくりが描かれている。

世界にひらく城下町を熊本は目指していく。熊本地震からの創造的復興として、世界に誇る熊本城など歴史的な町を未来へつなげようという提言です。

0. 構想の背景

●熊本地震からの創造的復興の旗の取り組みやまちづくりの機運を「まちの理想」の実現につなげたい。そうした思いから熊本経済同友会と熊本商工会議所が中心となり、熊本市中心市街地のまちづくりの長期ビジョンについて討議を重ねてきた。その要点を社会的提議としてまとめたのが「熊本市中心市街地Grandデザイン2050」である。

●さて、熊本市中心市街地は、熊本城や城下町の広がりや歴史を各時代が求める都市機能を充実させながら、九州中央の広域拠点の役割を果たす。熊本城に代表されるくまもとの歴史や文化、阿蘇や天草などの大自然は、世界に誇れる地の財産である。また、新鮮で旨い食材を生産する農漁村地域と近接している点も大きな魅力である。

●一方、熊本市中心市街地は幾つかの中長期的課題にも直面している。

- ① 熊本市や熊本県における人口減少、特に45歳以下人口の減少とそれに伴う深刻な人材不足や地域経済の縮退
- ② 熊本城の被災と復旧事業の長期化。さらには城下町の建替えに伴う町の歴史的個性の希薄化
- ③ 大規模改修や建替え、設備の大改修などが必要となる大規模施設の集積したエリアの存在
- ④ 駐車場や空きビルなど中長期的には土地利用の活用が見込まれる土地の広がり

●熊本市中心市街地のGrandデザインを描くにあたっては、想定されるこれらの課題に対処するとともに、先述の優れた特質や九州における地理的条件、熊本地域の伝統や教訓と創造的復興の取り組み、さらには近年加速化しつつある経済社会や技術の変化なども視野に入れながら討議を進めることになった（詳細は2次報告参照）。

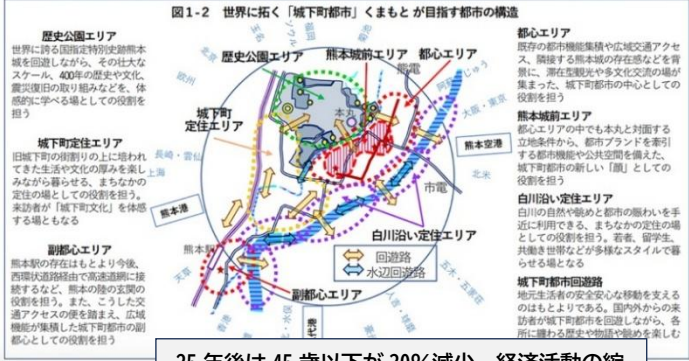
Google Earth の画像を加工



1. 世界に拓く「城下町都市」くまもとが目指すところ

●熊本市中心市街地は、世界に誇る熊本城を始めとする、地域の歴史、文化、自然の魅力を活かすと共に、若い世代が生き生きと活動する未来標準の生活基盤を整えることで、国内はもとより世界からも注目される多文化交流の都市、「世界に拓く「城下町都市」」となることを目指す。その実現に向け、熊本城を要とする城下町の基盤の上に、場所ごとの特性を踏まえながら次の4タイプのまちを積み重ねていく。

- 都市像1 国内はもとより世界から多数の人々が来訪し、観光や経済・文化交流、さらには滞在自体を楽しむことができるまち
- 都市像2 商業や業務などの都市活動に加え、観光サービスを通して熊本の経済をリードすると共に、次の時代を拓くビジネスや人材を育むことができるまち
- 都市像3 熊本市民はもとより広域の人々が集い、上質な都市サービスを気軽に享受することができるまち
- 都市像4 若者や高齢者、共働き世帯や留学生など、都市サービスが働く場への近さを求める人々が集まり、多様なスタイルで暮らしを楽しむ、生きがいを得ることができるまち



25年後は45歳以下が30%減少、経済活動の縮退、空きビル、休眠土地などの課題がります

2. Grandデザイン2050検討

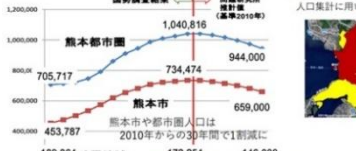


図 2-1 熊本市及び周辺地域の人口の推移と将来推計

図 2-3 熊本市中心市街地の土地利用資源 長期にわたって守り育てたい土地と中長期的に変化が期待される土地

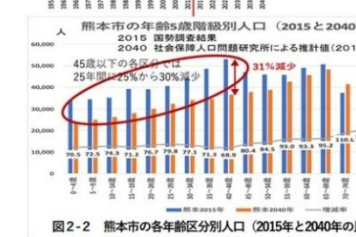


図 2-2 熊本市の各年齢区分別人口 (2015年と2040年の比較)

図 2-3 熊本市中心市街地の土地利用資源 長期にわたって守り育てたい土地と中長期的に変化が期待される土地

- 1) 想定した熊本市中心市街地の広域的作用
 - ① 熊本活性化のエンジンとなる (牽引する・先導する・惹く)
 - ② 熊本や地方都市のモデルとなる (先駆けとなる・先導する)
 - ③ 熊本や九州のショーケースとなる (地域の窓口や仲介役となる・顔となる)
- 2) 熊本市中心市街地が直面する中長期的課題
 - ① 人口、特に45歳以下人口の減少
 - 図1 熊本市や熊本県人口が今後25年間で1割減
 - 図2 熊本市の45歳以下人口は今後25年間で各区分25%から30%減少
 - ② 人口減少や人手不足に伴う経済活動の縮退
 - 地域生活者の高齢化や若年層では人口に占める割合として予測
 - 熊本市の中期経済発展では、成長の抑制が顕著 (GDP+年率+交付税) が、2010年の72.2千億円から2050年には55.3千億円程度に減少すると推計
 - 歴史文化遺産の被災や建替えに伴う町並みの個性の喪失
 - 災害に脆弱な建物、エネルギー効率の低い建物の集積
 - 図3の水色帯で表示した建物や土地など
 - ④ 空きビルや空きビルなど休眠土地の広がり
 - 図3の水色帯で表示した土地の広がり
- 3) 熊本市中心市街地の強みと想定される好機や脅威

活かすべき地域の強み

 - ① 熊本城の存在と城下町由来の街の個性
 - ② 九州における地理的中心性
 - ③ (観光地や基幹的な都市との間の交流)
 - ④ 豊富な地下水と旨い食材供給地の存在
 - ⑤ 身近に利用できる、充実した都市サービスと良好な自然

活かすべき外部からの好機

 - ① 海外旅行客の急増と観光産業及び周辺成長の余地
 - ② 成長するアジアとの近接性 (観光や輸出の拡大)
 - ③ 福岡への近接性・福岡経済の溢れ出し
 - ④ 都市復興の機運と建物更新の進行
 - ⑤ カラシニアや高齢者の普及と無用化する駐車場用地の広がり
 - ⑥ 女性や高齢者の労働需要と都心志向の生活スタイルの浸透

対策すべき地域の弱み

 - ① 若者が魅力を感じる就業機会の不足
 - ② 国際的な知名度・ブランド力の低さ (くまもが弱い)
 - ③ 同様に克服する各種自然災害

対策すべき外部からの脅威

 - ① 首都圏や福岡が発する経済や人材吸引力の拡大
 - ② 小売業の立ち位置を脅かす通販の急拡大
 - ③ 大手企業の地方都市オフィス再編縮小や、在宅勤務・高効率労働の増加によるオフィス需要自体の縮小
- 4) Grandデザイン2050における中長期的施策展開の考え方
 - ① くまもとの経済社会的活力低下を食い止めるため、国内外からの交流人口の増加と、若い世代や外国人などの定住人口の確保を図る
 - ② 交流人口増加に向け、地域が保有する資源や九州における位置的条件を活かして国際的に注目される滞在型観光の強化に取り組む (都市像1・都市像2)
 - ③ 定住人口の確保に向け、観光産業及び関連産業の成長を促す、新しいビジネスの育成や起業を後押しする、新活動場を支えることで、若者の就業機会や活躍の場の創出に取り組む (都市像2・都市像3)
 - ④ また中心市街地が蓄積した都市サービス機能の強化と共に都市圏全域から中心市街地への移動利便性向上に取り組む (都市像3・都市像4)
 - ⑤ さらに若者、共働き世帯、高齢者、留学生等、街なかの暮らしを求める人々が定住する場の確保にも取り組む (都市像4・都市像5)
 - ⑥ 都市圏全域に渡っては、震災復興に伴う多数の建替えや市街地の再建、産業の動きを好むと見られ、市民協賛と協力を得ながら、災害に対して強靱で、環境に優しく快適な建物や公共空間の創出に取り組む (都市像5)
 - ⑦ 都市の個性や空間的動向上の観点から、熊本城や白川などの歴史・文化・自然資源やそれらに隣接する物産性や公共空間の創出に取り組む (都市像5)
 - ⑧ 民間の大規模施設や公共施設等の建替えに際しては、事業の継続性や地域の特性に配慮するとともに、経済的再配置を誘導することで、都市サービスの高度化、経済活性化、地方税収拡大に取り組む (都市像5)
 - ⑨ 空地や空き建物、長期的には需要減が想定される駐車場の集積するエリアの土地利用の高度化を図る (都市像5)



- ・2050年まで、多文化交流のハブ機能強化
 - ・物語豊かな滞在型サービス
 - ・新たなビジネスを育む環境整備
 - ・世代を超える多様な暮らしの場
 - ・人と環境に優しい市街地の創出
- 5つの目標を設定されています



城下町都市の実現に向けて、歴史回廊整備や城の前の市街地の整備ほかの様々なプロジェクトを具体的に提言されています

懇親会

卓話・意見交換会・懇親会がおこなわれた『城見櫓』は、熊本城の真正面に位置する郷土料理・日本料理の名店。会場からはライトアップされた美しい天守閣が見ることができ、わたしたちも十分堪能することができた。

熊本経済同友会 野田副代表幹事よりごあいさつをいただき、地元料理に舌鼓をうちつつ、交流を深めることができた。最後にまちづくり委員会 永原委員長よりごあいさつをいただき、とても印象深い会となった。

2日目

①水前寺成趣園

国の名勝・史跡に指定されている回遊式庭園。江戸初期、寛永9年(1632年)、肥後細川初代藩主・細川忠利公(ほそかわただとしこう)が御茶屋を置いたのが始まりで、その後、三代目藩主綱利公(つなとしこう)のときに庭園が完成し、中国の詩人陶淵明(とうえんめい)の詩「帰去来辞(ききょらいのじ)」に因み、成趣園と名づけられた。阿蘇の伏流水が湧き出る池を



中心に、ゆるやかな起伏の築山、浮石などが配された庭園は四季折々の自然と庭園美を楽しめる。また大正元年(1912年)に京都御所内から移築された古今伝授の間(こきんでんじゅのま)は、慶長5年(1600年)細川藤孝公(ほそかわふじたかこう)別名幽斎(ゆうさい)が智仁親王(としひとしんのう)に古今和歌集の奥義を伝授された建物といわれ、この建物から見る成趣園の風景が最も良いとされている。ここも外国人の他、多くの観光客が、それぞれ散策を楽しんでいた。

②熊本博物館

熊本城に建設された熊本博物館は、昭和49(1974)年、基本構想で掲げられた4つの理念、広域情報型博物館、市民開放型博物館、郷土立脚型博物館、人間密着型博物館を持つ博物館として、「未来へつなぐ熊本の記憶」を全体テーマとし、熊本の歴史や文化、人と自然との深い関わりを示しながら、長い時間の中で織り成されてきた知の蓄積を来館者に楽しく分かりやすく伝え、古墳時代から現在までの熊本の歴史を伝える役割を担っている。



おわりに

JR 広島駅の新しい商業施設“minamoa(ミナモア)”がグランドオープンして 2026 年 3 月で 1 年。今春には、目の前のエールエール A 館が改装し、広島市中央図書館を含め 4 月にオープンを迎えました。折しも、駅北側では新しいアリーナ建設に向け広島市と JR 西日本が協定を結んだことが報じられました。

ここから西へ向かうと、浅野藩主の別邸、家老の上田宗箇による大名庭園 縮景園を経て、2024 年の春、先んじてオープンしたサッカースタジアム“エディオンピースウイング広島”は開業以来、連日チケットは完売。隣接するひろしまスタジアムパークとともに、大きなぎわいスペースとなっています。

こうした 2 つのエリアを動線的に結ぶのが広島城三の丸であり、第 1 期エリアに続き、来春には第 2 期エリアが登場する予定。さらには本丸天守の木造建て替え(復元)が引き続き協議され、こちらも市民の大きな関心事となっており、今後ますます広島城の歴史文化的価値は高まり、観光振興に資するコンテンツとなることが期待されています。

「広島城と城下町」をテーマに令和 6 年度以来、さまざまな取り組みをおこなってきた当文化振興委員会では、さらにこのテーマを深掘りし、より実践的な学習・体験を通じて体得したものをベースに、広島の振興に直結する、次なる有効的な提言へとつなげる目的で、令和 7 年度も引き続き同テーマで活動を続けました。

引き続き「広島城と城下町」テーマの 3 期目となる令和 8 年度においても、会員の皆様のご協力の元、他の委員会とも横断的な連携を図りながら、チャレンジ精神を忘れずに取り組みで参ります。どうぞご理解、ご支援のほどよろしく願いいたします。